

事業の背景・目的

木更津市は、東京湾アクアライン等の交通網が整備され住宅地や商業施設の開発が進んだことで、近隣市や都心からの移住者や観光客が増加している一方、市全域の1/4を占める森林や、盤洲干潟といった豊かな自然環境の保全や資源としての活用が十分に行われていないという課題がある。そこで本事業では、モリアオガエル等が生息する一方でアメリカザリガニ等の外来生物や獣害被害の問題もある矢那地区等の里山や、アサリやアマモ等が大幅に減少している盤洲干潟等の里海を対象に、生物多様性の保全再生と持続可能な観光利用を着実に進めることにより、人と自然、地方と都市が共生する持続可能な共生型の社会の実現を推進することを目的とする。

事業の内容

第一に里山里海の体験拠点の環境保全と、体験活動を実施できる環境の整備を進めた。その上で、その環境を人々に伝えていくための観光・教育プログラムの開発を行い、実施した。同時に、観光・教育プログラムを効果的かつ継続的に運用していくための人材育成を専門家のアドバイスのもとで行い、さらに、本事業による環境への負荷を低減し、持続可能な利用を実現するための施策を実行した。

ア 里山里海の体験拠点の環境保全・整備事業

森林の整備や外来生物の駆除、里海のクリーンアップや資源再生事業を行った。



イ 里山、里海体験による観光・教育プログラム創出事業

専門家や旅行会社との連携やモニターツアー等により、プログラムの磨き上げを行った。



ウ 専門家招聘、監修による人材育成事業

人材育成の方法を見直し、新たな専門家の招聘等により、更に効果的、効率的な人材育成方法を実践した。



得られた成果

里山体験プログラムについては、校外学習の誘致を積極的に行ったため、前年度を上回る参加者に対して実施することができた。里海のプログラムについては昨年度より参加者を増やして実施できているが、目標にはまだ到達していない。里山プログラムとセットで実施することが多く質の高いプログラムを提供しているが、丸一日のプログラムとなっているため参加のハードルも高く、数時間から半日程度のプログラムの定期的な開催の検討が必要である。

里山整備のフィールドやプログラム整備の土台ができたので、ソフト面の開発にさらに力を入れていく。特に活動フィールドのメインである木更津市矢那にて事業を行うKURKKU FIELDSとの連携により、通年活動ができる体制を築いていく予定。自然環境の保全に対する直接的な寄与に加え、校外学習による児童生徒への啓蒙活動や、一般の方々を対象とした生物多様性について学ぶプログラムの実施により一層力を注いでいく。